

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072200423		
法人名	有限会社 ツーウェイ・ヒューマニゼーション グループホーム和笑		
事業所名	グループホーム 和笑		
所在地	〒838-0002 福岡県朝倉市長谷山393-10	0946-25-0377	
自己評価作成日	平成27年01月04日	評価結果確定日	平成27年02月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境的にも自然豊かな四季を肌で感じる事の出来る静かな地域であり、一人一人の心に寄り添うケアが出来るよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「和笑」は、自然環境に恵まれ、空気と水が美味しい秋月の城下町の中にあり、宅老所、デイサービス併設の、1ユニットのグループホームである。代表夫妻の介護に対する熱い思いが、利用者や家族の心を開き、家族アンケートも全員が回答して貰い、深い信頼関係に結び付いている。玄関からリビングルームに入ると、レク上手な職員と利用者が、楽しそうに歌や体操で盛り上がり、利用者一人ひとりに合わせた生活リハビリを活用し、身体機能維持に取り組んでいる。また、代表の自宅がホームの前にあるので、地域との関わりが深く、緊急時の非常ベルをつけて、地域の方の協力体制も整っている。利用者の健康管理は法人内の看護師と、介護職員が協力し、主治医と連携し、充実した医療、介護体制に取り組んでいる「グループホーム 和笑」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年01月22日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		3. たまにある				3. たまに
		4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が				
		2. 利用者の2/3くらい				
		3. 利用者の1/3くらい				
		4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を知らない職員もいる。しっかりと共有できるようにと申送り時に唱和したりしていたが、現在は知らない職員もいる。	ホームが目指す介護のあり方を示した理念に変更し、職員に分かりやすい内容にしたので、職員全員が、理念の意義を理解し、常に理念を振り返り、利用者一人ひとりの個性を大切に、ケアの実践に取り組むように検討している。また、入社時に、理念の意識付けをしていくことを検討している。	職員全員に、理念の意義を理解して貰うためにも、毎日唱和し、理念に基づいた介護が実践出来ているかを確認し、会議や、勉強会の中でも、職員間で、理念について、話し合うことを期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の重度化で、地域の行事の参加は、難しいが、職員を中心に、地域との関わりを大切にしていこうと検討している。	オーナーの自宅の前に開設したので、知り合いも多いが、利用者の重度化が進み、地域に出掛けることは少ないが、保育園児やボランティア、小学校の職場体験受け入れ等、利用者の楽しみに繋がる交流が継続されている。	地域の行事や、清掃活動に利用者の参加が無理なら、職員が積極的に参加し、地域の中で、認知症介護の拠点としての意識付けと、地域との相互協力関係の構築を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には出来ていない。相談に応じたりしているのみである。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	相談したりして意見を頂いたりしても、中には活かしていない部分もある。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、行事(敬老会、クリスマス会、夏祭り)を兼ねて開催し、参加者の負担軽減と、楽しい会議にしていくために、様々な議題や、内容に取り組み、会議がホーム運営に反映出来るように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して下さった時などに報告したり、尋ねたりしている。協力関係を築く努力をしているが、現状はなかなか難しい。	管理者は、困難事例や、事故報告、疑問点などを行政に相談し、意見や情報を提供して貰い連携を図っている。また、運営推進会議に、行政職員が出席し、ホームの現状を理解して貰い、アドバイスを貰い、協力関係を築く努力をしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。基本的には介護の指針として職員一同、しっかりと認識しているつもりですが、現在の状況では一時的に施錠せざるを得ない時があった。	会議や勉強会を通じて、職員は、身体拘束について知識を習得し、拘束が、利用者にも与える影響を理解し、身体拘束をしないための、介護のあり方について話し合っている。また、玄関の鍵は、日中は開放しているが、利用者の状態に合わせ、鍵をかける時もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	十分努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この一年、この制度に関して事業所内での研修はできていないが、相談を受けた場合は相談にのったり協力している。	研修会や、勉強会は実施していないが、管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度を理解し、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が制度を必要とする時には、何時でも制度について説明し、申請手続きが支援出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書の説明は、その都度理解頂いているか疑問はないか確認しながら行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見はスタッフ皆に送りされている。	職員は、利用者と常に日常会話の中から、利用者の思いや意向を聞き取り、家族の面会や、行事参加時に、利用者の健康状態や、生活状況を報告し、家族の意見や、要望を聞き取っている。また、手書きの心温まる「和笑便り」を定期的に発行し、ホームでの様子を写真と一緒に家族に送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間的にも余裕をもった会議ではなく、ケア中心の内容になりがちであるが、出来るだけ職員とは、話し合える時間をつくっている。	会議は、カンファレンスが中心になり、職員間で利用者一人ひとりの状態を話し合い、検討し、介護計画を作成している。また、職員の気付きや心配事には、毎日の申し送りの中で話し合い、解決出来るように、職員とのコミュニケーションを大切に、取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えているつもりであるが、反映には至っていない。と反省ばかりである。努力や実績に応じて...というよりは同じ水準での反映になってしまっている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用等に関しては特に問題としては考えていないし、色々な場面で目標を掲げてやってほしいと願っているし、配慮していると思う。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていないので、20代の職員から70代まで幅広い層の職員が勤務し、和気藹々とした関係の仲で、楽しい職場環境を目指している。管理者は、職員の特長を把握し、役割分担や、勤務体制に配慮し、職員一人ひとりが目標を掲げて、日常業務に取り組むように工夫している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修会には、参加していないが、日常業務の中で、職員の言葉かけや対応に注意している。	職員会議や勉強会を通じて、利用者の人権問題について職員間で話し合い、利用者が安心して、穏やかな表情になるには、どのような声掛けが良いか等を、利用者一人ひとりに合わせて取り組み、利用者の尊厳が守られる暮らしの支援を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナー参加の呼びかけはしているが、個人に合わせた研修の働きかけは進めていない。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に聞き取りをしたり、入居者の状況観察に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かい事でも聞き取りを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援に努めているが、他のサービス利用はしていない。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には冗談を言ったり、より親しい関係になって活かしたりしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に全部応えるのは難しいが、少しずつ関係継続の支援が出来るように努力している。	管理者は、利用者のアセスメントや家族の話しから、利用者の人間関係や、地域との関わりを把握し、会話の中から、会いたい人や、行きたい所を聴き取り、家族に相談し、実現に向けて努力している。また、利用者の友人や知人が、何時でも面会出来るように、職員間で支援出来るように取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に散歩したり、レクリエーションをしたりし話やすい雰囲気を作ったりと努めているが難しいところもある。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話したりお見舞いにいたりたまにであるが努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	挨拶する時、バイタル測定する時などに表情観察したりしていつも本人本位に努めている。	職員は、利用者と日常会話や、バイタルチェックの中で、健康状態や、希望等を把握し、その人らしい暮らしが出来るように支援している。意思の疎通が困難な利用者には、家族に相談し、職員が諦めず寄り添って声掛けし、利用者の表情や、目の動きなどから、思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も面会にこられる方との会話の中等から情報収集に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送り等でも努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で毎月話し合いを行っているが本人との話し合いは難しい。スタッフの意見も少ない。	家族面会や、行事参加の時に、利用者も交えて、ホームに対する意見や、質問、要望、や心配事等を聴き取り、申し送りノートに記録し、カンファレンスを開催し、職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化に応じて、家族と連絡を取りながら、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・送りを毎日行い活かしているつもりだが、その日の状態等に応じて対応している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態、状況にて対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事業所の連携医にて対応している。	入居時に、利用者の馴染みのかかりつけ医と、月2回往診が出来る協力医療機関を選択してもらい、ほとんどの利用者が協力医療機関を活用し、24時間安心して医療が受けられる体制を整えている。法人内看護師と、介護職員が協力し、利用者の状態変化を察知し、主治医に相談し、速やかな対応が確立されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	その日の職員間で相談する事はもちろんだが連携医に報告をし、指示を仰いでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的(こまめに)に面会、情報収集に行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、連携医とともに活かしているが不安でもある。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族と話し合い、希望を聞き取り、ホームの支援体制の理解も得ている。利用者の重度化に合わせて、家族と、話し合い、今後の方針を主治医も交えて話し合い、関係者全員が方針を共有し、職員一人ひとりが自覚して看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、避難訓練のみである。	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、避難場所に利用者を安全に、避難誘導出来るように取り組んでいる。また、外部に緊急状態を知らせるベルを設置し、外部からの応援が出来る体制を整えている。非常時に備えて、食料や水を3日分備蓄している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そう心掛けてより、できていると思う。	職員は、「自分がされたら嫌だな」という思いを常に意識し、利用者に対する声掛けや介護について、改めて見直し、利用者や家族の満足に繋がる介護に取り組んでいる。利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務については、管理者が職員に話し、徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情観察にて努めているし、問いかけでも思いを聞き出せるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそえるよう努めているが出来ない事も多い。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それなりの身だしなみは出来ている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、出来ていない。一緒に作ることが困難で食事のみ一緒に楽しんでいる。	隣接のデイサービスからの配食を利用し、栄養士が建てたメニューを基に栄養バランスに配慮した料理を、利用者と職員がテーブルを囲んで食事し、楽しい食事風景である。利用者の重度化が進み、以前は一緒に手伝ってもらっていた食事作りも困難な状態で、現在は、楽しく食べることを中心の食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量には注意している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。部分介助であったり全介助であったり、一人一人に応じてしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に応じて、トイレ誘導したり布パンツと紙パンツの使い分けを提案したりしている。	重度化してもトイレでの排泄支援を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや、習慣を把握し、早めの声掛けや、トイレ誘導を行い、失敗の少ない排泄支援に取り組んでいる。また、オムツやリハビリパンツ、パットの使用方法を研修し、オムツ使用の軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の献立である程度、予防にはなっていると思う。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない。(拒否があれば日にちを変更するが)『楽しい入浴だった』と思っていただけるよう介助中の会話での雰囲気作りに努めている。	入浴は、週3回を基本とし、利用者の希望を聴き取り、いつでも入浴出来るように配慮している。入浴が楽しい時間になるように工夫し、職員との会話が弾み、昔話を聞きながら、利用者と職員が本音で話せる信頼関係を築く機会と捉えている。入浴拒否の利用者には、無理強いせずに対応し、日時の変更をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は出来ているが、理解は出来ていない部分もあるかもしれないが、症状の変化等には確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今はあまり出来ていない。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の重度化が進み、今はあまり出来ていない。	利用者の重度化と、職員の勤務体制により、十分な支援は出来ていないが、個別の支援の中で、散歩や買い物、ドライブ等に出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、家族の協力をえて、外出してもらい、利用者の生き甲斐に繋がる、外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人は本人持ちになっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には行っている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	秋月の城下町の自然環境の中であり、利用者が一日の大半を過すリビングルームからは、利用者同士や、職員との会話が弾み、穏やかな一日が始まるようとしている。家庭的な雰囲気を利用者や職員共同の飾り物や作品で、演出し、来訪者をホットさせる和やかな様子は、見る者の心を穏やかにさせている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。今まで使いたれたものを持参して頂いたりしている。	利用者が使い慣れた馴染みのベッドや筆筒、椅子、鏡、家族の写真等を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して、穏やかに暮らせる、清潔で明るい、居室になっている。また、家族や来訪者が、居室でゆっくり寛げるように取り組んでいる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		